

# 「アネモネの咲く庭」

西浦 真弓

## 登場人物

小山 澄江 健吾の母。  
小山 健吾 澄江の息子。  
相田 由美 健吾の婚約者。

小山家。

澄江 ごめんなさいね、バタバタしていて  
由美 いえ。こちらこそ、こんな時に来てしまつて  
澄江 あ、お茶よね。ちよつと待っていてくださいね  
由美 お構いなく

お茶を淹れに行く澄江。

由美 ちよつと、本当に良かったの？  
健吾 大丈夫だつて。母さんも言つてただら  
由美 何かお手伝いした方がいい？  
健吾 大丈夫だつて、お客さんなんだから  
由美 でも：  
健吾 心配しすぎだつて  
由美 だつて  
澄江 (台所に向かつて) だいぶ片付いた？  
澄江 そうね、一通りは  
由美 あの、何かお手伝いしましょうか  
澄江 有り難いんだけど、お客様に手伝つてもらはうわけには：  
健吾 ほら  
由美 いえ、お客様扱いしないでください  
澄江 汚れちゃうし。まだ籍も入れてないよそ様のお嬢さんにさせるわ

由美 けにはねえ  
澄江 入籍はまだですけど、家族と思つてください  
由美 ……そう？じゃあ、ちよつとだけ手伝つてもらおうかしら  
澄江 はい！  
由美 どうぞ  
澄江 いただきます  
由美 後でちよつと隆のところ行つてくるから  
健吾 隆？  
健吾 前話した同級生  
由美 ああ、あの双子の  
澄江 出産祝いまだだつたから  
健吾 由美さんも行かなくていいの？  
由美 あ、私は  
澄江 気遣うし、入籍してからでいいんじゃない  
健吾 出産祝い渡すついでに結婚のこと言うみたいで  
澄江 それなら今度がいいわね  
健吾 (お供えを見て) お、いろいろある  
澄江 お父さん好きだつたから、叔母さんが持つてきてくれたの  
健吾 食べていい？  
澄江 一個だけよ  
健吾 はいはい  
澄江 由美さんも何か食べたいのあつたら言つてね  
健吾 私はお腹いっぱいなんで  
由美 遠慮すんなよ  
澄江 ほんとに大丈夫だから  
健吾 (お茶を飲んで) はあ、やつと落ち着いた  
澄江 何か手伝う？  
健吾 いいのいいの。朝のうちに叔母さんたちが結構やつてくれたから  
由美 あ、私は手伝います  
澄江 要らない物ばかりじゃない？  
健吾 捨てられない人だつたから  
澄江 本も読まないのに出かける度に買つてきたよね  
澄江 こんなに積みあがつてたわよ。やつぱり読んでないのかしら

健吾 読んでたとこ見たことないし  
澄江 私も。でもあんなにあると捨てるの勿体なくて。あ、由美さん読  
書なさる？

由美 あ、はい  
健吾 由美、文学部だったよな？

由美 うん  
澄江 ちようどいいじゃない。何か読みたいのあったら持って帰ってね  
由美 いいんですか？

澄江 うちじゃ誰も読まないし。読んでもらう方が本も幸せでしょ  
由美 じゃあ遠慮なく  
健吾 何であんなに買い込んでたんだろうな、親父

澄江 さあ。そういえば、あんた手合わせた？  
健吾 最初にやったよ

澄江 あら、そう  
健吾 お義父さんって健吾さんに似てますね

由美 えーそう？  
澄江 眉毛とか口元とかそっくり

由美 男の子は母親に似るっていうでしょ？でも健吾は生まれた時から  
澄江 お父さんそっくりだったのよ

由美 そうなんですか  
健吾 爺ちゃんがいつも言ってたな

澄江 よく遊んでもらったわよね  
由美 へえ

澄江 お爺ちゃん、お父さんかわいがってたし、そっくりな健吾もかわ  
健吾 いかつたみたい  
澄江 (庭を見て) あ、この花咲いたんだ

健吾 今が咲き頃  
澄江 ふーん

由美 あの花って何ですか？  
澄江 アネモネっていうの

由美 あれが  
澄江 これいつの間にか植わってたよな

澄江 お父さんが持って帰ってきたのよ

澄江 お父さんが持って帰ってきたのよ

健吾 母さんに？

澄江 どうかしら  
由美 赤と紫があるんですね

澄江 紫は私が後から植えたの  
由美 かわいい

澄江 気を付けてね。かぶれちゃうから  
由美 あ、はい

健吾 もうこんな時間か。俺ちよつと行ってくる  
澄江 あんまり長居しないのよ

由美 あ、お祝い持ってる？  
澄江 ある。行ってきました

澄江 隆くんによるしくね

健吾を玄関まで見送る由美。その間に澄江は本を取りに行く。

由美 (戻ってきて) あれ？

澄江 由美さん、ちよつと持ってください？  
由美 あ、はい

澄江 (本を置いて) はあ、ちよつと頑張りすぎちゃったわ  
澄江 本って見た目より重いですよね

由美 これ、全部捨てようと思ってるから好きなを選んで  
澄江 こんなにたくさん  
澄江 まだまだあるのよ

由美 あ、運びましょうか？  
澄江 大丈夫。ちよつと持ってくるから、ゆっくり選んでね

澄江 ありがとうございます

澄江は再び本を取りに行く。

一人残った由美は本を物色し始める。パラパラといくつか本をめぐっていきが、ふとその手が止まる。

由美 (便箋を見つけて) …何これ？

手紙のようだ。思わず読んでしまう由美。

由美  
：え？

他の本にもあるか確かめる。何冊かに挟まっていたようだ。  
澄江が戻ってくる。

由美  
（便箋を隠す）  
：どうかした？

澄江  
いえ

由美  
気に入るのあるかしら

澄江  
あ、はい：

由美  
こつちも見えてみてね

澄江  
あの、これって中触ったりしてますか？

由美  
ちよっと動かしたりはしたけど、どうして？

澄江  
あ、いや：特に意味は

由美  
あらやだ、やっぱりいたのね

澄江  
え？

由美  
やっぱり虫干ししておけば良かったわ（と、本を取ろうとする）

澄江  
ああ！大丈夫ですから、虫いませんでしたから

澄江  
え？でも

タイミングよく家の電話が鳴る。

由美  
カビたりしてませんでしたから

澄江  
そうなの？

由美  
あの、電話出た方がいいんじゃないですか？

澄江  
：そうね

由美  
はい

澄江、電話を受けに行く。

澄江が行ったのを確認して、由美は新しく持ってきた本もめくって調べる。いくつか出てくる。

澄江  
由美さん

由美  
（思わず隠して）はい

澄江  
ちよっとお隣行ってくるけど、大丈夫かしら？

由美  
はい、大丈夫です

澄江  
ごめんなさいね。すぐ戻るから

由美  
いいえ、ごゆっくり

澄江  
澄江出かける。

由美  
由美は便箋を一枚一枚丁寧に見ていく。

健吾  
何やってんの？

由美  
わ、驚かさないですよ

健吾  
ただいまって言ったけど

由美  
ごめん聞こえなかった。早かったね

健吾  
いやー双子って大変だわ。片方が泣いたらもう片方も泣くんだな。

健吾  
忙しそうだからさっさと帰ってきた

由美  
へえ

健吾  
なにこれ？

由美  
お義父さんの本に挟まってたんだけど…

健吾  
お、ラブレター？親父もやるう

由美  
やっぱりそうだよね

健吾  
（読んで）…ん？

由美  
：お義母さん宛てじゃないよね？

健吾  
この様子って誰？

由美  
どう思う？

健吾  
どうって…

由美  
捨てちゃった方がいいかな？

健吾  
いつ書いたかわからないだろ

由美  
でも、本に挟まってたってことは隠してたんじゃないの？

健吾  
いや案外、昔書いたのを見つけてそこら辺にパって置いただけかもよ？あ、親父そういうところあった

由美  
こんなにいっぱい？

健吾　：まあ、そういうこともあるんじゃない？  
由美　どっちにしてもお義母さんは見ない方がいいよね？  
健吾　かな：  
由美　他にもないか見て  
健吾　えー？  
由美　健吾はこれね  
健吾　俺疲れてるんだけど  
由美　いいから

二人で本を調べる。健吾はやる気なく本をめくる。何枚か出てくる便箋。

健吾　捨てるの？  
由美　お義母さんに見つからない内に  
健吾　勝手に捨てていいの？  
由美　わからないわよ  
健吾　ええ：  
由美　じゃあ健吾がどうにかしてよ  
健吾　そのまましておけば？  
由美　もし何かの拍子で見つけちゃったらどうすんの  
健吾　見つけるかな  
由美　修羅場だよ？修羅場  
健吾　親父死んでるのに？  
由美　お義母さんの心が修羅場なの  
健吾　大丈夫だって。今までも見つけてなかったんだから  
由美　：  
健吾　本と一緒に捨てちゃうって  
由美　（小声で）本当、楽天的なんだから  
健吾　何か言った？  
由美　独り言

澄江が帰ってきた音。

澄江　ただいま  
由美　おかえりなさい  
健吾　おかえり  
澄江　帰ってたの  
健吾　うん、双子大変そうだからお祝いだけ渡して帰ってきた  
澄江　隆くん元気だった？  
健吾　まあ。父親って感じしてた  
澄江　そう  
健吾　俺ちよつと出てくる  
由美　え？  
澄江　どこ行くの？  
健吾　散歩  
澄江　由美さん置いて？  
健吾　いいよね？  
由美　：わかった  
健吾　晩飯までには帰るわ

颯爽と去る健吾。

澄江　：良かったの？  
由美　まあ：いつものことですから  
澄江　：出来ない息子でごめんなさい  
由美　そんな、謝らないでください。わかって結婚しますから：  
澄江　本当にお父さんに似てるわ、あの子  
由美　え？  
澄江　フラッとすぐ何処かへ行くところ  
由美　お義父さんもそうだったんですか？  
澄江　ええ  
澄江　健吾さんもいつもそうなんです。約束してても、急にどっか行っちゃって  
澄江　なかなか帰ってこないのよね  
由美　そう、連絡も取れないし  
澄江　ああ、あったわ

由美 それで帰ってきたと思ったらヘラヘラ「ごめん」って  
澄江 本当に生き写しみたい  
由美 もしかしてお義父さんも一口頂戴って言いました？  
澄江 健吾も言ってるの？

由美 はい  
澄江 家族以外にもしてたのね  
由美 友達とかにも言いますよ  
澄江 まあ：

澄江 もう耳に付いて、気になって  
澄江 そういうときは先に一口あげるのよ  
由美 先に？

澄江 そう。先にあげると言わないから  
澄江 今度やってみます

澄江 ；（笑って）何だか楽しいわね  
由美 ；（笑って）はい

澄江 そうそう、お隣さんからお菓子いただいたのよ。一緒に食べましよう  
由美 はい

澄江 お茶淹れ直すから座ってて

澄江、台所へ行く。由美、便箋を近くの雑多に置かれていた箱と箱の間に隠す。

澄江 そういえば持って帰る本決まった？

由美 あ、まだ見てる途中で  
澄江 そう。ゆっくり見てね

由美 はい  
澄江 どうぞ

由美 いただきます  
澄江 結婚延びちゃってごめんなさいね

由美 お義母さんのせいじゃありませんから  
澄江 お義父さん間の悪いところあったのよ  
由美 健吾さんもあります

澄江 本当にそっくりね

二人、笑う。

由美 あの、お義母さんはお義父さんのどこが良かったんですか？

澄江 どこだったかしら：お見合いだったから  
由美 へえ

澄江 あ、でもお花  
由美 お花？

澄江 お見合いの時にお花を持ってきてくれたの。男の人からお花もら  
由美 うのなんて初めてで嬉しかったわ  
澄江 素敵ですね

由美 今思えばあの時に決めたのかも  
澄江 いいな。私もお花もらいたいな

澄江 健吾はあげたことないの？  
由美 全然。何かもらっても実用的なものばかりです

澄江 そこはお父さんに似なかったのかしらね  
由美 はあ、残念

澄江 ；赤いアネモネの花言葉って知ってる？  
由美 何ですか？

澄江 君を愛す  
由美 ロマンチックですね

澄江 私、結婚してから気が付いたことがあるの  
由美 何ですか？

澄江 夫婦だからって全部わかるわけじゃない  
由美 ；深いです

澄江 ふふ、そうかしら  
由美 お庭ちよつと見せてもらってもいいですか？

澄江 もちろんよ。裏にもお花植えてるの  
由美 わあ、ちよつと見てきます

由美、庭から裏へ回る。澄江、しばらくボンヤリとアネモネを眺めていたが、机の辺りを片付けだす。由美が隠した便箋を見つけ

てしまう。

由美 裏のお花も綺麗でした。お手入れどうやって…（澄江の様子に気が付き）あ

しばしの沈黙。由美、耐えきれなくなつて

由美 あの、それ本の間に挟まつて。でも、お義父さんのじゃないのかも

そう、本の間に…

澄江 あの、ええと

由美 本当は私、気が付いていたの

澄江 え？

あの人が出かけるのは本屋に行きたいから。駅前の木下書店。この店員に会いに行つてたのよ

由美 …不倫？

澄江 不倫じゃないわ

由美 え？

この手紙、その様子つて店員さんに渡したかつたんじゃないかしら。書いたけど、どうしても渡せなかった。赤いアネモネもきつと渡すつもりで買ったの。でも渡せなかった

沈黙。

澄江 由美さん。私、結婚してから気が付いたことがあるの

由美 …何ですか？

澄江 結婚しても全部自分のものになるわけじゃない

由美 …

結婚したから夫婦になるんじゃない。二人で、夫婦になつていくものなのよね

由美 …お義母さん

澄江 健吾との結婚迷つてる？

由美 …わかりません

澄江 そう

由美 …あの

澄江 なあに？

由美 …紫のアネモネの花言葉つて？

澄江 あなたを信じて待つ

由美 …そうですか

澄江 ええ

由美 …

澄江 今ならきつと大丈夫よ

由美 そう、ですかね

澄江 ええ、きつと

由美 …はい

終わり